

自分を伸ばす言葉がある ～「記録」のすすめ～

全海研 事務局次長 松井 聰 (千葉県)

私は、平成10年度～12年度、高雄日本人学校(台湾)に赴任した。帰国後、しばらくしてから千海研と全海研の活動に参加し、今も続けている。毎月の全海研幹事会における私の役割は、「記録」である。話し合いの様子、協議の上で決定されたこと、今後の課題などを記録し、各幹事(メーリングリストに登録された方々)に配信している。教師としての仕事の中でもマメに「記録」をしてきたほうであるが、海外派遣へのチャレンジは、「記録」の大切さを再認識することとなった。

今回は、「記録」について、自分の体験を振り返りながら考えてみたい。

「記録」をすすめる理由

帰国後、全海研の幹事として、ほぼ毎年のように在外教育施設派遣内定者研修に参加している。全海研は、派遣を目前に控えた先生方への実践的なアドバイスを行ってきているが、その講師として参加しているのである。そこで、先生方に伝えてきたキーワードがある。それは、「G・E・N・K・I」である。それぞれのアルファベットは、大事なポイントを意味しているが、(もちろん、最も大切なことは、「元気」です!) その中の「K」で「記録はマメに丁寧に」と紹介し、「記録すること」をすすめている。

結論からお話しよう。

私が「記録」をすすめる理由は、「記録」することで、「自分を伸ばす言葉」に出会うことができるからである。その言葉は、自分の視野を大きく広げてくれる。そして「もっと頑張ってみよう!」という元気・やる気や「今まで感じることができなかつたものを発見できた!」という驚きを連れてきてくれる。「記録すること」は、自身自身の可能性を広げていくことにつながるのである。

私はそう思っている。

決意をもって「記録」する

「記録」することが、どのように自分自身の可能性と関わってくるのか。そこには、まず、「しっかり記録しよう!」という決意が必要である。決意をもって「記録」することでどんな変化が表れるのだろうか。以下に紹介したい。

その1) 例えば、人の話を聞くとき。「記録」は人と人をつなぐ。

ただ漠然と聞くのではなく、相手の言葉に耳を傾け、一生懸命に聞くことになる。

「この方が言いたいことは、いったい何だろう・・・。」と記録をしながら考える。傾聴することで、その方の思いに触れ、気づくことができる。「記録」は、「聞く」という力を高め、大切なポイントに気づかせてくれるのである。この時の「記録」は、相手と自分をつなぐ「橋」となる。どこかでこの記録を紹介するときや、相手の方と再会する際に、この「橋」が相手と自分をつないでくれる。この「橋」を渡ってお互いの行き来が生まれ、言葉が持つ「思い」に気づくことになる。「橋」は太く頑丈になっていくのである。

その2) 例えば、今日の出来事を振り返るとき。「記録」は、自分自身の再発見を促す。

一日が終わり、今日の出来事や感じたことを記録する。

ふと目を閉じて、一日の流れを思い出してみる。少しずつ、今日あったことが頭をよぎる。今日出会った人の顔を思い出し、会話が蘇ってくる。「そういえば、あれにはビックリしたよなあ〜。」「あの言葉、妙に説得力があったなあ〜。」その日の記録とともに、何かを発見し、何かに気づいた自分自身を再発見する。

その3) 例えば、見学地に行ったとき。「記録」は、思いを冷凍保存する。

「記録」をしようと思うと、まず、大切なポイントを知る努力をする。そのポイントに付随して、マメ知識などを列記する。これは、今後どんなふうに広がっていくのだろうか……。その先を見通して記録をすすめる。見たものや聞いたことをまとめる際、自分自身が感じたことと一緒に記しておく、いつまでも臨場感のある「記録」になる。それらの「記録」を重ねていくと、いつしか「以前、同じように感じた場面があったよなあ……」と気づくことがある。冷凍保存されていた過去の自分の思いが溶け出してきた瞬間である。しっかりと保存しておかないと、同じ状況でも気づかないものである。

以上、3つの例で示したことを、海外で外国語を学ぶことにたとえてみると、こうなる。

海外から戻ると、「外国に3年も住んでたのだから、そこの国の言葉を覚えたでしょ！」と言われることがある。ただ住んでいるだけでは決して言葉は身につかない。これは、行っていた人にしかわかないこと……。覚えようと必死に努力するか、強制的に覚えなくてはいけないような状況に追い込む以外、身につかないものである。

これは、何も語学だけに限ったことではないと思うのである。全てとは言わないが、決意をもってしない限り、ほとんどの物事は身につかない。「記録」もまたしかりである。

「記録」が「思い」に届く

ここで、私自身の決意をもった「記録」が、思っていた以上の広がりをもせていった例をご紹介します。

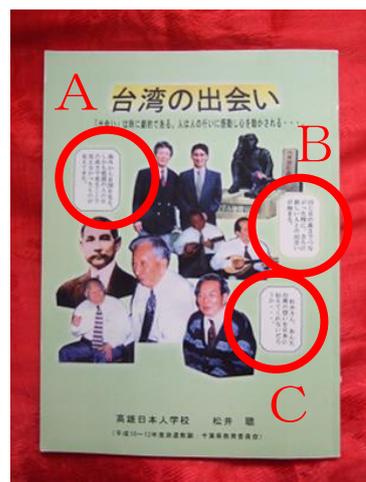


① 高雄プレス (高雄：毎月発行の日本人会機関誌に投稿)

台湾の高雄日本人学校に赴任し、中学部の「総合的な学習の時間」を担当していた頃、現地の旅行記を高雄プレスに投稿した。その後、現地の方々との出会いについて、毎月投稿し、連載物として掲載していただいた。書いていくことで、台湾で出会った方々の思いを紹介したいとの願いが膨らみ、更に新しい出会いにつながっていった。

② 台湾の出会い (高雄：派遣のまとめとして発刊)

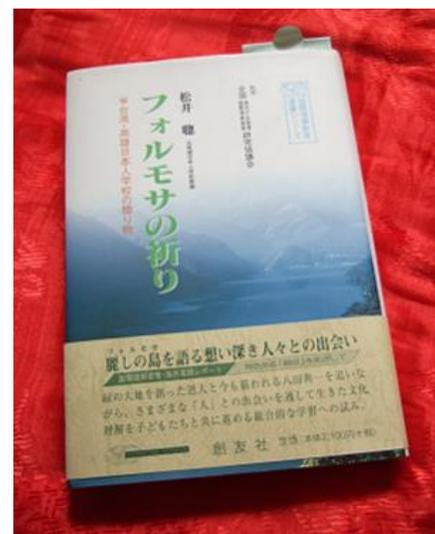
帰国が迫った頃、これまで投稿した原稿をまとめて1冊の本にすることにした。まとめてみて、気づいたこと。「ことば」には、



人を伸ばす、変える、勇気づける力があるということ。私は、出会った方々の言葉に励まされ、派遣教員として赴任した意義を再確認することができた。そこで、製本する際、自分に力を与えてくれた代表的な言葉（思い）を表紙の中に引用した。

- A 海外から自国を見る。しかも他国の人の目の高さで見ることで見えなかったものが見えてきた。
- B 同じ目の高さでつながった時に、さらに新しい人との出会いが始まる。
- C 松井さん、あんた台湾の想いを日本に伝えてくれないだろうか・・・。

- ③ フォルモサの祈り（日本：派遣の総まとめとして創友社から発刊）
帰国後、上記の「台湾の出会い」などをもとにして、「フォルモサの祈り」を発刊した。これは、創友社の「国際理解教育選書シリーズ」の第8作目にあたる。選書シリーズのことは知っていたが、自分が出すことになるとは全く思ってもいなかった。決意をもって「記録」したことが、「台湾の出会い」の投稿となり、それらが本となっていった。本につまった思いは、それを手にした人の心に届く。改めて本を読み返すと、派遣前「台湾と日本の架け橋になりたい」という自分自身の思いに届いた。
小さな努力がいつのまにか実を結ぶということを実感することになった。



自分を伸ばす言葉

今日、何かを「記録」することで、すぐ何か大切なことに気づくわけでもない。

明日、しっかり「記録」をとったからといって、すぐ自分を伸ばす言葉に出会えるとは限らない。ただ、少し辛抱して「しっかりと記録する」ことを続けてほしい。いつの日か、自分の心に響く言葉に出会う。他の人にとっては、何気ない言葉の中にとてつもない力が潜んでいることに気づく。その言葉に出会い、言葉を発した方の思いと向き合う。そして、自分が勇気づけられ、「また頑張ってみよう！」と元気になる。それが、「自分を伸ばす言葉」なのである。

帰国してから9年目。海外で暮らしていたのはずいぶんと前のことのようにも思えてきた。しかし・・・。
当時の思いは「記録」の中に、そして自分自身の中に冷凍保存されている。きっとこれからも、在外派遣へのチャレンジが気づかせてくれた「自分を伸ばす言葉」に気づくだろう。

「なるほど・・・。あの先生を動かしていたのは、この言葉だったのか・・・。」
その時が楽しみである。

※ 全国海外子女教育／国際理解教育研究協議会 会報「ひまわり」2009年より